

【夏の地貌季語の解説】

東日本 「アイスクリームの日」

アイスクリームの日日本丸接近す 新井みちを

明治二年（一八六九）五月九日、横浜の中心街馬車道通りで、町田房蔵が日本ではじめてアイスクリームを製造販売した。この日を記念して、昭和三十九年（一九六四）、社団法人日本アイスクリーム協会が五月九日を「アイスクリームの日」と定めた。房蔵は、アメリカで酪農技術を学んで明治元年に帰国した出島松蔵から製法を学んでいる。

芸句は、アイスクリームの日にメリケン波止場、みなとみらい横浜に泊まる練習船日本丸を配した。ここにも文化の窓がある。

西日本 「南十字星」（サザンクロス）

潮満つる兆しや南十字星

みなみじゅうじせい

正木礁湖

南天の代表的な星座の一つ南十字星は北緯二十七度より南へ行かないと見えない。沖縄県の八重山諸島波照間島はてるまではよく見えるという。「はいむるぶし」呼ぶ由。「はい」は南、「むる」は群れる、「ぶし」は星。南に群れる星という意の素朴な方言が、宮沢賢治の童話「銀河鉄道の夜」に書かれた南十字星の幻想を一層盛り上げるようだ。

芸句の作者は沖縄県石垣島在住。南十字星の下、潮が海原に静かに満ちてくる宵の緊張感が快い。

出典…『ゆたかなる季語 こまやかな日本』宮坂 静生 岩波書店

『語りかける季語 ゆるやかな日本』宮坂 静生 岩波書店